

原発がこわい女たちの会  
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2015年03月 | [トップ](#) | 2015年05月 》

検索

2015年04月24日(金)

 

仁坂知事発言に抗議する

アーカイブ

4月22日、和歌山県・仁坂吉伸知事の「発言」に抗議するため県庁まで行ってきました。

関西電力高浜原発3, 4号機運転差し止め仮処分決定について、知事が20日の定例記者会見で、「福井地裁の判断がおかしい」と発言したという新聞朝刊を目にしたのが翌21日。急ぎよ抗議文を作成して、22日11時に和歌山県庁へ。抗議文は「脱原発わかやま」からと「子どもたちの未来と被ばくを考える会」からの2通です【末尾に掲載】。

知事は外国出張中とかで秘書室の中村秘書課長が対応。報道各社が集まりフラッシュがたかれる中で、「子どもたちの未来と被ばくを考える会」事務局長・松浦攸吉さんと「脱原発わかやま」副代表の松浦雅代さんが、それぞれ抗議文を手渡し説明をしました(写真上)。

また、これはブラック・ユーモアになりましたが、仁坂知事にも参加いただくよう、5月10日の「佐藤栄佐久・元福島県知事の講演会」のご案内をしました。

秘書室のあと囲み記者会見にも9社が参加し報道機関の関心の高さがうかがえました(写真下)。



さて問題の知事会見発言は、この動画で視聴できます。(22分～30分あたり)  
[http://www.pref.wakayama.lg.jp/chiji/press\\_animation/press\\_animation\\_backN.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/chiji/press_animation/press_animation_backN.html)

- 論点は概ね次のようです。
- 1) 文明にはリスクがつきものなのに、原発だけが絶対の神様みたいになるのはおかしい
  - 2) 原発のリスクをゼロにというなら自動車使用差し止めもある
  - 3) 原発の専門家の言うことには謙虚に敬意を払うべき

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

4) 電気代がかさんで企業が倒れたら誰が責任を取ってくれるか

などと、およそ行政のトップらしからぬ「おかしな」発言です。  
 (市井の人の意見ならば、まだしもですけど)  
 判決文をよく読んでいないとか言葉だけが独り歩きしないようにと報道に注文付けるとか、煙幕を張りながらの発言ですが、仁坂知事が**持論を披瀝した**、という事実はよくわかります。発表項目にない突然の記者からの質問にこれだけ詳しく答えたということは、余程言いたかったのでしょうか。確信犯です。

抗議文の繰り返しになりますが、原発のリスクをどのように考えるのか、福島の実態をどのように把握しているのか不明です。  
 いまだに帰還できないで避難生活を余儀なくされている人たちの存在、汚染された田畑や自然、健康被害の累積と不安、見通しのない収束作業の被ばく労働と投入される税金、…このような原子力災害によるリスクの認識が知事には抜け落ちているようです。和歌山県とは関係ないからということでしょうか。

さらに見逃せないのは、専門家の言うことには謙虚に、誠意をもって、のくだりです。  
 「(行政のトップや)裁判官は、技術についてそんなに知っているはずがない」だから「専門家(規制委員会)のいうことを黙って聞いていたらよい」といっているに等しく、「よろしむべし 知らしむべからず」という時代錯誤ではないのでしょうか。裁判官やさらには市民を侮辱する発言といってもいい。  
 それに、専門家のいうことを素直に信じてはいけないよ、過誤もすればウソもつくよということを、福島原発事故を通して私たちは骨身にしみて学んだのです。

国策である原発について正面から渡り合わないまま、司法の役割を抑制的に捉え、国の言い分をそのまま認めることにならざるを得なかった、ということなのでしょう(善意にみて)。それこそが裁判官の基本的姿勢であり態度でした。これまで幾多の原発訴訟が、例外的なもの(もんじゅの控訴審、志賀原発の一審判決など)を除いて、住民側の敗訴に帰しているのです。22日に出されたばかりの川内原発仮処分も。

その中であって大飯、高浜における樋口英明裁判官の判断は、福島事故で原発の危険性の本質・被害の大きさを捉え、行政の裁量に任せるのではなく、司法として自ら判断する道を選んだ原発訴訟で司法の独立への風穴をあけた画期的な判決でした。

今回の仁坂知事の発言は、原発再稼働を急ぎたい推進側の思惑をくみ原発再稼働をプッシュするための、仁坂知事にとってはもともと「持論」展開としか聞こえませんが、知事発言としてはお粗末と言うしかありません。  
 (sora)

\*\*\*\*\*  
 2015年4月 22 日

和歌山県知事 仁坂吉伸 殿

脱原発わかやま 代表 冷水喜久夫  
 事務局・田辺市あけぼの42-40 寺井拓也方  
 電話・FAX 0739-25-5586

再稼働差し止め仮処分決定に関する知事発言への抗議

4月20日の定例会見で、知事は4月15日の福井地裁の仮処分について、批判をされたと報じられています。それは、報道によれば概ね次の通りです。

- ① リスクのあるものは止めなければいけないのであれば、自動車の使用差し止め請求も可能ではないか。人間の生命に対するリスクから言えば、こちらの方がはるかに大きい。
- ② 文明はリスクを持ちながら、メリットとデメリットを考えて社会のシステムの中に巻き込んでいる。なぜ原発だけ、神様みたいになるのか
- ③ 電気代がかさんで、ぎりぎりで頑張っていた企業が倒れる。一家が路頭に迷い、大変な悲劇が起これば、誰がその責任を取るのか。
- ④ 裁判所や行政などのトップはある意味では謙虚でなければならない。(専門的知識を)それほど知っているはずはない。専門家の意見を敬意を持って聞かなければいけない。

知事は福島原発事故から、一体何を学んだのでしょうか。この未曾有の事故の最大の教訓は「二度とこのような事故を起こさない」ことではないのでしょうか。もしそうだとするならば、原発事故を自動車事故と比較することなどできょうはありますが

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
- そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
- コメントありがとう by sora (12/05)
- 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
- 10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
- starさんコメントあり by sora (09/14)
- このブログを読むまで by star(09/13)
- こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
- 現在稼働している大飯 by star(04/09)
- 廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2015年04月 >						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13
- 琵琶湖集会(11/15)
- 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
- 原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
- 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
- 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)
- ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
- 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
- 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
- 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

ません。あるいは、②や③も同様に県の行政のトップとしては考えられない発言です。

会見で知事は、一般に生ずる事故のリスクのうち「人間の生命」だけを取り上げて、原発と自動車事故とを比較しています。しかし、原発のリスクはそれだけにとどまらないことは言うまでもありません。植物も動物も、生きとし生けるもの全てが被害を被ります。大地も空気も海も川も、全て汚染されます。つまり生活環境の全てが破壊されてしまいます。さらに何万年もわたり消え去らない放射能汚染がありますし、いまだに未解決な放射性廃棄物処分の問題もあります。これらは、負の遺産として子々孫々に災禍をもたらします。

また、被害の広域性もあります。福島事故において近藤俊介原子力委員長が菅首相に示した最悪のシナリオによれば、避難の対象となったのは東京を含む半径250キロ圏内の住民にまで及びました。事故の進展次第では、首都圏と東北の広範囲が破滅的状况に陥っていたのです。このように生存環境が、広域的に、根源的に、時代を超えて脅かされる可能性のある原発と自動車事故とを、比較して論ずること自体、論外と言わざるを得ません。

④についても、謙虚になるべきは仁坂知事、ご本人ではないかと思わざるを得ません。なぜならば、わが国における3権分立のもとでは、行政を含む諸行為が適法か違法かを判断するのが司法の役割ですから、行政府の長たる知事こそ、司法の判断に謙虚であるべきであります。

福島事故の原因さえ未解明で、収束のめども立たず、何万人もの住民がまだに避難生活を余儀なくされているなかで、このような発言は許されません。福島県に出かけ仮設住宅の住民の方々の前で、到底語れないであろうこのような無責任な発言に対して抗議を致します。

2015年4月22日

和歌山県知事 仁坂吉伸殿

「子どもたちの未来と被ばくを考える会」  
代表 松永久視子・芝野絢子・松浦雅代  
事務局 〒640-8142和歌山市三番丁6関西電ビル4階  
金原法律事務所内  
電話・fax 073-451-5960(松浦)

#### 抗議文

関西電力高浜原発3、4号機の再稼働をめぐり、4月14日の運転を禁じた福井地裁の仮処分決定について、仁坂知事は20日の知事の定例会見で、「判断がおかしい」と批判した、と21日の新聞で知りました。

報道によると、仁坂知事は、「なぜ原発だけが絶対の神様みたいになるのか。生存権のために『リスクをゼロにしろ』と言っているのに近い。それなら自動車の使用差し止め請求もできるのでは」と発言されたとのことでした。

しかし、原発は、ひとたび事故を起こすと、その被害は図りしれないものです。実際、福島県原発事故により4年経った現在も避難している人は12万人にもなります。福島県で当時18歳未満の人で甲状腺がん及び疑いが117人になったと報告されています。原発の事故原因もはっきりしていません。今なお収束の見通し全く立っておらず、汚染水はたれ流されています。収束するまでに莫大なお金と長い年月がかかります。その間、高線量の被曝労働が続けられます。そして、環境中に放出されたセシウム137の半減期30年は特に子どもたちへの影響は測り知れません。

地殻変動の激しい日本では原発事故の危険性は免れません。福井県の高浜原発が万一事故を起こせば関西一円、和歌山も被害を受けます。またたとえ事故が起こらなくても、運転に伴い発生する使用済み核燃料の安全な処理はなく、すべて無責任な先送り状態です。福島事故を経験した私たちにとって、今回の知事の発言は、原子力災害によるリスクについて、被害の実態を無視したものとわざるを得ません。県民の健康や安全を守るべき行政の責任者として、放射能の被害について、認識を新たにしてくださいが必要があります。

私たちは、安心して子供を生み、育てる環境を未来の子どもたちに引き継がなければなりません。仁坂知事にもその責任があります。

原発がこわい女たちの会  
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ  
記事の投稿  
管理  
RSS  
ログアウト

BLOGariは2017年1月末  
サービス終了します

2015-04-24 | 記事へ | コメント(0)

2015年04月07日(火)

佐藤栄佐久氏講演会のお知らせ

「原発がこわい女たちの会」は結成28年を迎えました。

当会は、チェルノブイリ原発事故を機に翌1987年3月に立ち上げましたが、その前身は前回ブログ(ニュース93号)にもあるように、「ぺんぺん草」という主婦たちの勉強会グループでした。

1982年「ぺんぺん草」の最初のテーマは「原発って なあに？」でした。月1回のペースで、参加した人の、個々の興味のある社会的テーマを取り上げ、講師を招き資料を読み合って学びのパフォーマンスをしていましたが、1985年に入り、日高や日置川の原発候補地からは緊迫した状況が伝わり、日高町の「原発に反対する女の会」の人たちとの交流や親子で原発関連の紙芝居を作ったりして、原発について学習を深めて行きました。

1986年チェルノブイリの事故後、直ぐに国は原子炉の型が違うから日本の原発は安全だと安全宣言を出しました。和歌山県は推進の動きばかりでした。危機感から急きよ「ぺんぺん草」メンバーで相談して、運動体として「原発がこわい女たちの会」を結成したのです。

当時は子育て中で子連れでの活動をする人も多く、ときに子育て問題で盛り上がることもありました。それが今や孫に世代交代です。

(この項 松浦雅代)

原発がこわい女たちの会28年のつどいでは  
元福島県知事・佐藤栄佐久氏を招いて講演会を開きます。

- ◎テーマ 「原発問題と地方の論理」
- ◎日時 5月10日(日)14:00～
- ◎場所 あいあいセンター6階・センターみらい/参加費500円

— 原発がこわい女たちの会結成28年のつどい —

## 佐藤 栄佐久氏講演会

(前福島県知事)

<佐藤栄佐久氏プロフィール>

1939年福島県郡山市生まれ、東京大学法学部卒業後、日本青年会議所での活動を経て、1983年に参議院議員選挙で初当選。87年に大蔵政務次官。88年、福島県知事に当選。5期18年目の2006年9月、県発注のダム工事をめぐる汚職事件で追及を受け知事辞職、その後逮捕。09年10月、1審、2審で、有罪判決となったが、「取崩額ゼロ」という前代未聞の認定となった。12年10月、最高裁は検察、弁護側双方の上告棄却を決定、有罪が確定した。

著書に「知事抹殺」(平凡社・2009年)「福島原発の真実」(平凡社新書・2011年)佐藤栄佐久+開沼博「地方の論理」フクシマから考える日本の未来(青土社・2012年)



◎日 時 **5月10日(日) 14:00～**

◎場 所 **あいあいセンター6階ホール**  
センターみらい (和歌山市小人町29番地 ☎073-432-4704)

◎参加費 **500円**



「原発問題と地方の論理」

原発がこわい女たちの会連絡先 (073-451-5960 松浦)

(拡大して見て下さい)

佐藤栄佐久さんの著書『知事抹殺—つくられた福島県汚職事件』(平凡社)、『この国はどこで間違えたのか』(徳間書店)等には、知事時代に原発と対峙した記録がつづられています。

始まりは、知事初当選後まもない1989年、東京電力による福島第2原発3号機のトラブルとずさんな対応に直面したこと。地方自治が蹂躪されている現実に気付いたそうです。

それから5期18年の知事在職中は、原子力行政に地域の意見を反映させるべく、民主主義の検証について県内はもとより国内外で問題提起し、リーダーシップを行使してきました。

2001年、福島第1原発プルサーマル計画を凍結(知事退任後、次の知事が受け入れ)

2002年、福島県が「米国のイラク攻撃」に反対決議(県議会で全国唯一)

情報を隠ぺいし操作し、体裁を保とうとする国や電力会社の体質を問題にして、**地域住民の事情をないがしろに、頭ごなしに原発を推進してしまう「原発帝国・日本」**に抗した数少ない知事だったのです。

収賄額ゼロでも有罪—検察は異常な執念を燃やして佐藤栄佐久さんを有罪に持ち込みました。

担当検事が放言したという「**知事は日本にとってよろしくない。いずれ抹殺する**」

これは、検察の、そして中央官僚や原子カムラの本音でしょう。

ものを言う知事、帝国に逆らう知事、闘う知事だからこそ、煙たがられ追い落とされたのです。

「上から目線」に徹底して対抗し、地方の住民の主権を主張し続けた佐藤栄佐久さん。そのお話をお聴きして、一人ひとりが主体的に自分の頭で考えていくことの意味を再確認しませんか？

**5月10日の講演会に参加されることを呼びかけます。**

お気づきでしょうが、「地域住民の事情をないがしろに頭ごなしに原発を推進してしまう」この**原発を基地**に変えるとそっくりそのまま現在進行中の沖縄・辺野古問題に重なります。「日本の安全保障のために」とか「電力が不足するから」とか、不確かな根拠を国民に信じ込ませるところも同じです。

( sora )

---

2015-04-07 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0